

**役割**

(部長：五條小学校 竹林先生)  
講師：県教育委員会 岩垣指導主事  
司会：委員長 立花先生 [真菅小学校]・副委員長 柳沢先生  
記録：藤田先生 [二上小学校]、(木村先生)  
授業者：羽山先生 [広陵東小学校]

**今日の流れ**

- 授業者から指導案について説明の後、質疑応答
- 柱①「動きを引き出すためのコツ。声かけ、場づくり」→研究主題に関わっての工夫について。今回のポイントはどこか。(教師の支援活動言葉がけ、場づくり、)
- 柱②「2年生に求められる良い動きとは？自分なりの動きでいいのか？」→到達させたい具体的基準

**その他**

子どもたちの実態に合わせてリズム遊びにした。運動会のダンスでも体が止まってしまう児童もいた。子供たちが自由に楽しく踊れるようにもっていきたい。

体育は好き。特にボール遊びが好きな児童が多い。ダンスには苦手意識が強い。

## 【質疑応答】

- 運動会のダンスは楽しそうではなかった？→表情は硬い様子だった。
- リズムに合わせてミラーや真似っこ遊びをするのか？曲やリズムを無視して動いているのはリズム遊びにつながりにくいのではないかと思う。→良い動きやノリがまだはっきりしていない部分やどのような声かけ、流れを作ればうまくリズム遊びにもっていけるかと合わせて、皆で考えていきたい。
- 曲や指導の流れをイメージして話し合えたら。
- 子どもの様子を具体的に思い描けているか。(ゴールのイメージ)→おへそをポイントにして、おへそを動かしてリズムに乗らせる。体の部位(腕、足、お腹など)を分けて、動きを増やしていく。体の向きも少し意識させる。素早いターン・止まる・捻る・回す・友達と掛け合うなど。
- 体ほぐしからリズム遊びに繋げるやり方をどうするか。

【グループ協議①】「動きを引き出すためのコツ。声かけ、場づくり」→研究主題に関わっての工夫について。今回のポイントはどこか。教師の支援活動言葉がけ、場づくり。②「2年生に求められる良い動きとは？自分なりの動きでいいのか？」→到達させたい具体的基準

### A

- まず先生の動きのノリを真似させてみるのはどうか。いくつか先生が例を見せる。「こうしてみたらどう？」みたいな問いかけをして考え、知らせていく。そのあとに良いところを褒めて動きを引き出していく。
- 3時間目で、「この曲やったらどんなふうに踊るかな?」。リーダーの真似をさせて、曲が変わったらリーダー交代という感じ。列になって真似ではなく、円や四角になって動く。
- 2時と3時のまねっこ遊びに変化をつけた方が良い。
- 既成の動きを真似するところで終わると即興の踊りにならないが、別の曲で、少し変化をつけて、自分で考えて動いてみると、即興性が出てくる。
- 人の真似をして楽しく動くことが面白いという感性、素地を作っておく声かけ。1時間目始まる前に引き出しを作っておく。幼稚園や保育所、テレビ、家などで見つけてくるのが良いのでは。芸人さんとかが使う音楽で一緒にやってみるのも良いかも。
- 帰りの会にOLAをかけて楽しい雰囲気になれるか。動きが始まるかが重要。クラスのテーマダンスみたいな感じになっていければいい。音楽にのって先生と一緒に楽しむ雰囲気を作っておく。
- 「それいいよね!」、「それに手もつけてみたらどう?」、「あの子一緒にグループでやってみたら?」、「今の動き、先生には思いつかんかったなあ」という声かけ。
- 器械運動にならないよう注意。組体操や馬跳びとかの動きが出てきたらうまく声かけをして修正をしていく。組体操の真似とかではリズムダンスにならない。教師が整理しておく。

### B

- 最終的には友達と繋がれるように、最初は教師主導で、動いていって様子をみながら変えていく。スモールステップが重要。

- 新聞紙でウォーミングアップ。心と体をほぐして、徐々にリズムにつながるようにする。ねじる、まわる、組み合わせなどの動きを増やしていく。
- 前時の活動をウォーミングアップに入れると、雰囲気も作れて、ポイントも確認できて良い。

#### その他

- 研究協議において、何点かポイントを絞って、話し合いを進めるのも有意義。
- 視点をもって授業を見るとさらに、分析が深まる。
- 「豊かなつながり」への工夫が見えるように。羽山先生の声かけと児童の変化の記録。子供達同士がどのように関わったのか。子供たちの実態に合わせて、授業をどう展開したか。
- 「豊かなつながり」を中心に、視点を明確にして積み重ねていく部会の深まりがあれば。昨年や今までの成果と課題を踏まえていくことが大切。
- 羽山先生の思う「良い動き」を設定しておいて、他の先生方に見つけてもらって、もし他の「良い動き」が見つければそれも良い。授業当日のチェックシートに入れられれば。①教師の声かけ、②子供同士関わり、③良い動き、の三つの視点。

#### 【岩垣先生指導助言】

- 児童のリズム遊びに対する見方を変えることが必要である。事前のアンケートから間違えずに踊らないといけないと思っている児童がいる。児童が恥ずかしい、覚えにくい、ではなく自由に踊ってよいというふうに思えるようにしたい。
- 単元の最初に多様な動きの引き出しをつくることが重要。心と体をほぐす活動では、前時で意欲的に活動できたのであれば、それを本時でやってみるのもよい。単元計画は立てるが、児童の実態に合わせて変えていくことも重要。特に児童のつまずきを踏まえて、軌道修正したことがあれば、次回の部会で伝えていただきたい。どのような手立てをしたかが、部会の先生方の参考になる。
- 知識・技能の評価時期が単元前半になっているが、児童の動きが増えてきた後半でも評価していくことが大切である。
- 新しい学習指導要領の内容で指導案を作成してもらっている。
- 授業者の声かけや児童の声を記録していくと良い授業分析ができる。
- 学習カード。児童が書くのが大変なのであれば、めあてに焦点を絞って、振り返りをさせてもよい。授業を振り返る項目を少なくして、めあてにせまれる方がよい。